

宇美南中学校 JUMP!

3 学年通信

第15号

令和3年9月10日(金)

3学年チーフ 田口 裕之
文責 馬場 健太郎

福祉講座～介護講演～

9月9日(木)の総合的な学習の時間では、「福祉講座」として、介護講座を行いました。宇美町社会福祉協議会の井手様、四方様、松本様をお招きして、今、福祉に求められているものや、認知症に関する知識について、講演をしていただきました。

2時間目の講演では、「今、福祉に求められているもの」、「災害時に知っておいてほしいこと」について、お話していただきました。お話の中で、「福祉とは、『しあわせ』や『ゆたかさ』を意味するものであり、全ての幸福と社会的援助が必要である。」と話されていました。今後、少子高齢化社会が進む日本で、「子どもから高齢者までが、安心して生活できる社会」そして、「誰もが支え合うことで、孤立せずに、その人らしい生活を送れる社会」(地域共生社会)を目指していきましょう。



3時間目の講演では、「認知症に関する知識(接し方・マナー)」についてお話していただき、認知症サポーター養成講座を行いました。初めて認知症について学習する生徒も多く、認知症が脳の病気であることや、認知症の方との正しい接し方についてなど、多くのことを学習することができました。講座の中では、複数の生徒による寸劇も行いました。「夕食を食べたおばあちゃんが、『ごはんは、まだですか?』と言ったとき。」や「自分の家にいるのに、夕方になると、『今日はもう帰ります。』と言ったとき。」の2つの場面での孫としての対応の仕方について行いました。劇をしてくれた5人の生徒のみなさんは、一人一人がそれぞれの考えを持って、自分だったらどう接するかを実践してくれました。



お腹減ったねー。また、ご飯食べようか。

今日は、家に泊まっていて、おばあちゃんと一緒に寝たいから。



一緒にご飯食べようか。



きよしのTV終わっちゃうから、家で見よ!



一緒にトランプしよう。

それぞれが心温まる言葉がけでした!

今日学習した優しい声かけや寄り添った姿勢などの認知症の方への接し方は、みなさんが友達や家族、地域の方々と接するときにも大切になります。相手を大切に思う気持ちを忘れずに、仲間との関わりを深めていきましょう。

～みなさんの介護講座を通しての振り返り～

- 福祉は、「ふだんの・くらしの・しあわせ」を守るためにあるものだと思います。地域の人との関わりを深めるために、あいさつをしたり、ボランティアをしたりすることが大切だと分かりました。地域を見守り、異変があれば、気づいていきたいです。(1組)
- 今日の講座で、認知症は脳の病気であることが分かりました。もし、自分の顔を親に忘れられたらとても悲しいですが、優しい言葉で対応していきたいと思います。認知症は、1種類だと思っていましたが、中核症状と周辺症状の2種類があることが分かりました。(1組)
- もし、自分の親や身近な人が認知症になったら、失敗したことを責めるのではなく、優しく理解して、症状を改善できるような人になりたいです。相手も混乱しているし、不安だと思うので、優しく接していきたいです。(1組)
- 認知症の方と接するときは、相手の目的や理由を否定せずに、他のことに興味をもってもらうことが大切だと分かりました。また、認知症の方は、自分自身が認知症だと自覚しているわけではないので、傷つけないように、優しく接することが大切だと思います。(1組)
- 人が幸せな暮らしができるようになるには、「安心」と「安全」が必要だと思った。災害時のボランティア、普段の地域活動など。中心となって行うのは、大人ではなく、これから宇美町を引き継いでいく学生の私達だということに気がきました。(2組)
- 誰もが安心して暮らせるようになるためには、認知症の人だからといって避けるのではなく、みんなが認知症について正しい知識を持って助け合うことが、これからの世の中に求められていることを知りました。(2組)
- 私は、祖母と一緒に暮らしています。なってほしくないですが、もし認知症になってしまったら、自分にできることは率先して行い、優しく対応して、安心できるようにしてあげたいと思います。近所の方にも高齢の方がいるので、気にかけていきたいと思います。(2組)
- 認知症の人への接し方を強く、厳しく当たるのではなく、優しく相手の考えを聞くことの大切さに気がきました。また、今まで、認知症のことをあまり知りませんでした。今回の講演から、5人に1人が認知症であり、忘れていたことを忘れていたということを知りました。(2組)